

この資料は、2013年2月7日にテバ本社（イスラエル）が発表したものの邦訳です。訳に齟齬が生じる場合、原文が優先されます。

テバ 2012年第4四半期および通年の業績を発表

- 売上（ネット）：52億 US\$（第4四半期）、203億 US\$（通年）
- 非 GAAP 希薄化後 1株当たり純利益：1.32US\$（第4四半期）、0.37US\$（通年）
- GAAP 希薄化後 1株当たり純利益：5.35US\$（第4四半期）、2.25US\$（通年）
- 四半期配当：15% 増（1.15 NIS / 株）
- 買い戻し自社株：5億 US\$（第4四半期）、12億 US\$（通年）
- 営業キャッシュフロー：16億 US\$（第4四半期）、46億 US\$（通年）

2013年2月7日、エルサレム： テバファーマスーティカル・インダストリーズ・リミテッド（以下、テバ）（NYSE: TEVA）は、2012年第4四半期と通年の業績を発表しました。

まずは、ジェレミー・レビン（テバの社長兼 CEO）からのメッセージです。

「昨年1年を通じて私たちが投じた努力は、明確に、テバの力量とこの会社を変えようというコミットメントを示すこととなりました。そのうえで、私たちは、力強くそして洗練された経営目標を立て2013年を迎えています。ジェネリック医薬品事業は引き続き、ビジネスの中核として残ります。米国では、2012年にジェネリック医薬品を23種類発売しましたが、2013年もほぼそのくらいの数の発売を予定しています。スペシャリティ医薬品事業は、引き続き、多発性硬化症、中枢神経、呼吸器、オンコロジー、ウィメンズヘルスにおける堅固な礎の上にバリューを築いていきます。Copaxone[®]（コパキソン）は、今後も多発性硬化症の領域で売上およびシェアのいずれにおいてもリードする立場を維持します。2013年3月には、週3回投与で済む新しいタイプの Copaxone[®]を FDA（米国食品医薬品局）に新用量追加の申請をする予定です。テバの新しい R&D 体制は素晴らしい成果を出しており、期待通り NTE（New Therapeutic Entity: 新規治療領域）パイプラインが充実してきています。同時に、テバの Constellation（星座の意味）事業開発プログラムを通じた外部提携の可能性も広がりはじめました。また、Reshape（再形成の意味）プログラムも始動し、将来のテバへの投資を見据えたコスト管理を行っていきます」

さらに次のように付け加えました。「テバの増配当に関する取締役会の決定を特にうれしく思います。現在実施中の自社株買戻しにより戻ったテバの新戦略とともに、この決定は、テバ経営陣の自信と前向きな姿勢を表すものです。私たちが定めたテバの方向性が正しいものであり、テバの長期に渡る成長を確実なものとするすることで、患者さん、顧客、株主に対して真のバリューを提供できるものと確信しています。

第4四半期の地域別売上

米国における2012年第4四半期のネット売上は、26億US\$（全世界の50%）で、前年同期に比べて14%減収となりました。Provigil[®]の売上が、2012年第2四半期から始まった競争の激化で大幅に減少したものの、2011年の第4四半期は、Zyprexa[®]ジェネリックの発売があり、Lipitor[®]ジェネリックの発売についてランバクシー社の合意を得るなどで特別に高い増収があったことも同期比較に加味して考える必要があります。このような特別増収が2012年第4四半期に無かったことを考えれば、Copaxone[®]の増収など総じて好調な年だったといえます。

欧州における2012年第4四半期のネット売上は、15億US\$（全世界の29%）で、前年同期に比べて2%増収（現地通貨計算では5%増収）となりました。その成功要因には、いくつかのスペシャリティ医薬品、得にCopaxone[®]のマーケティングおよび販売権の奪取があり、また、OTC製品の増収が寄与しました。今後とも継続して、テバの持続的で有益な成長戦略と協調しながら欧州のコマーシャルモデルをマネージします。

その他の市場における2012年第4四半期のネット売上は、11億US\$（全世界の21%）で、前年同期に比べて3%減収（現地通貨計算では2%減収）となりました。この減収要因として、2012年第1四半期にMepha AG社が廃業したこと、そしてカナダの政府主導型薬価改定による業績低下が挙げられます。しかし、この減収分はラテンアメリカにおける成長により一部相殺されました。

	第4四半期 (12月31日)		増減率		増減率	
	2012	2011	2012比率(%)	2011比率(%)	対前年同期	対前年同期
	単位: 百万米ドル					
米国						
ジェネリック	1,034	1,242	20%	22%	-17%	-17%
スペシャリティ	1,527	1,770	29%	31%	-14%	-14%
その他	60	33	1%	1%	82%	82%
米国合計	2,621	3,045	50%	54%	-14%	-14%
欧州*						
ジェネリック	930	982	18%	17%	-5%	-3%
スペシャリティ	420	329	8%	6%	28%	32%
その他	177	183	3%	3%	-3%	-4%
欧州合計	1,527	1,494	29%	26%	2%	5%
その他の地域						
ジェネリック	698	758	13%	13%	-8%	-7%
スペシャリティ	159	155	3%	3%	3%	4%
その他	244	224	5%	4%	9%	11%
その他の地域合計	1,101	1,137	21%	20%	-3%	-2%
総売上	5,249	5,676	100%	100%	-8%	-7%

*スイスおよびノルウェーを含むEU加盟国

2012年度第4四半期の各製品ライン売上高

ジェネリック事業における当期ネット売上は30億ドルであった前年同期比11%減少の27億ドル（原薬売上高2.2億ドル含む）となりました。テバの総売上に占めるジェネリック製品の売上割合は、2011年第4四半期に52%であったのに対し、今年同期は51%でした。ジェネリック製品の売上は下記の通りです。

- 米国における売上高は前年同期比17%減の10億ドルとなりました。減少は前年同期に実施された大きな追補製品が主に影響しています（当期売上高に寄与しなかった Zyprexa[®]のジェネリック製品、および Lipitor[®]のジェネリック製品追補に関するランバグジー社との契約を含む）減少は2012年初めおよび第4四半期に追補製品の売上によって相殺されました（TroCor[®]のジェネリック製品を含む）。
- 欧州における売上高は前年同期比の5%減少、現地通貨建てでは3%減少の9.3億ドルとなりました。イタリアおよびスペインにおいて、売上高の減少が見られましたが、それはドイツ、イギリス、フランスおよびポーランドにおける収益増加によって相殺されました。当期中、欧州にのジェネリック事業において継続的な利益率を引き続き確保することができ、またイギリスでの Seroquel[®]および Detrol LA[®]のジェネリック製品を含む追補も成功を収めました。
- 欧米以外の地域における売上高は、前年同期比8%減少または現地通貨建てで7%減少の6.98億ドルとなりました。ラテンアメリカおよびロシアにおける成長と一部相殺されましたが、Mepha社の特定事業の売上、およびカナダ政府の薬価改定によるカナダにおける売上低下が要因となりました。

	第4四半期 (12月31日)		増減率		対前年同期
	2012	2011	2012比率(%)	2011比率(%)	
	単位:百万米ドル				
ジェネリック	2,662	2,982	51%	52%	-11%
原薬	202	197	4%	3%	3%

スペシャリティ医薬品事業における当期ネット売上は前年同期（23億ドル）から7%減少の21億ドルとなりました。スペシャリティ事業の売上高は下記の通りです。

- 米国における売上高は、前年同期比14%減少の15億ドルとなりました。
- 欧州における売上高は、前年同期比28%増加、現地通貨建てでは32%増加の4.2億ドルでした。

- 欧米以外の地域における売上高は、前年同期比 3%増加、現地通貨建てで 4% 増加の 1.59 億ドルでした。

スペシャリティ医薬品事業における売上高は、前年同期と変わらず当期総売上高の 40%となりました。

スペシャリティ医薬品事業において、前年同期売上高より減少しましたが、これは主にコパキソン®および特定のその他スペシャリティ医薬品の堅調な売上により一部相殺されましたが、2012 年に導入されたジェネリック競争の結果として Provigil®の売上低下が要因となりました。

米国および世界において多発性硬化症の優れた治療薬である Copaxone®のテバの世界的な売上は、前年同期 (9.27 億ドル) 比 14%増加または 15%増加の 11 億ドルとなりました。増収要因としては、主に欧州において販売権の再獲得が成功したこと、および引き続きマーケットシェアのリーダーであったことが挙げられます。米国においては、売上は 12%増加の 8 億ドルとなり、これは 2012 年中通して実施された価格の引き上げが起因しました。米国以外の売上高は前年同期比 23% 増加、現地通貨建てでは 27%増の 2.37 億ドルとなり、主要要因は欧州での販売権の再獲得がありますが、一部は入札時期に起因するロシアにおける売上低下により一部相殺されました。

テバの Azilect® 売上高は 4%増の 8.6 千万ドルとなり、世界的な市場では 4%増の 1.13 億ドルとなりました。これは主に米国および欧州における需要の伸長、ならびに価格の引き上げが牽引しています。

	第4四半期 (12月31日)		増減率		対前年同期
	2012	2011	2012比率(%)	2011比率(%)	
	単位:百万米ドル				
スペシャリティ	2,106	2,254	40%	40%	-7%
中枢神経系	1,340	1,562	26%	28%	-14%
コパキソン®	1,059	927	20%	16%	14%
プロビジル®	25	350	§	6%	-93%
アジレクト®	86	83	2%	1%	4%
ヌビジル®	78	86	1%	2%	-9%
呼吸器系	256	275	5%	5%	-7%
プロエア™	120	145	2%	3%	-17%
キューバル®	92	93	2%	2%	-1%
ウーマンズヘルス	132	93	2%	2%	42%
オンコロジー	233	190	4%	3%	23%
トレアンダ®	161	131	3%	2%	23%
その他スペシャリティ	145	134	3%	2%	8%

§ 0.5%以下

OTC(一般用医薬品) プロクター・アンド・ギャンブル社(P&G)との合弁会社である PGT ヘルスクエアの当期総売上高は 3.77 億ドルとなり、前年同期比 11%増加、現地通貨建てでは 12%と

なりました。テバの当期ネット売上高は前年同期の 2.17 億 US\$から 24%増加、または現地通貨建てで 25%増加の 2.69 億ドルとなり、主な要因としては、欧州を含む主要市場においての力強い売上およびシェアの成長、特にラチオファーマブランド、ロシアおよびイスラエル、ならびに 2011 年 11 月に開始した製造契約に準じた米国における P&G 社に対する OTC 製品の売上が主な要因です。

その他事業における当期ネット売上高は 2.12 億ドルで、主にイスラエルおよびハンガリーにおける委託製品の販売が要因となり、前年同期は 2.23 億ドルでした。

	第4四半期 (12月31日)				増減率 対前年同期
	2012	2011	2012比率(%)	2011比率(%)	
	単位: 百万米ドル				
その他	481	440	9%	8%	9%
OTC	269	217	5%	4%	24%
その他の収益	212	223	4%	4%	-5%

各地域における 2012 年度通期売上高

米国における通期純売上高は、前年度比 19%増加の 104 億ドル（総売上高の 51%）であり、前年度第 4 四半期の Cephalon 社の統合ならびにスペシャリティおよびジェネリック両製品の好調な収益によるものです。

欧州におけるネット売上高は、前年度と同じ、または現地通貨建てで前年度比 8%増加の 57 億ドル（総売上高の 28%）となりました。本年の欧州での売上高は、販売権の再獲得およびテバ OTC 事業の持続的成長を受けて、Cephalon 社統合ならびに主には Copaxone[®]などいくつかのスペシャリティ医薬品の好調な売上により恩恵を受けました。本成長は外国為替の悪影響（主にはユーロ、ハンガリー通貨、ポーランド通貨）、ならびに引き続きマクロ経済的な状況に起因するジェネリック製品の売上低下およびジェネリック製品価格を引き下げる一方で、ジェネリック製品の市場浸透を促進するという欧州の主要市場での医療改革に相殺されました。さらに、当該地域のいくつかの卸業者との再交渉した結果、在庫水準の低減となったため、売上高は悪影響を受けました。このような状況にもかかわらず、利益性のある製品に焦点をあてた事業戦略が功をなし、市場の大部分は現地通貨建てにおいて利益性の向上を維持しました。

欧米以外の地域におけるネット売上高は前年比 9%増加の 42 億ドル（総売上高の 21%）となりました。現地通貨建てでは、欧米以外の地域での売上高は 13%増加しました。本年度の増収は主に日本での企業買収の一年に亘って実施された統合、ロシアおよび東欧市場での売上増加、ならびにラテンアメリカでの力強い成長によるものでした。さらに、上記市場では OTC 事業が成長しました。この成長は主にカナダ政府による薬価改定に起因するカナダにおける低迷する業績による相殺されました。ジェネリック製品における成熟市場（カナダおよびイスラエル）での本年度売上高は、前年比 9%減少の 13 億ドルとなりました。ジェネリック製品における新興成長市場（日本、ロシア、LATAM およびその他 ROW 諸国）の売上高は、前年比 19%増加の 29 億ドルとなりました。

		2012年度 (12月31日)				増減率	増減率
		2012	2011	2012比率(%)	2011比率(%)	対前年同期	対前年同期 現地通貨建て
		単位: 百万米ドル					
米国							
	ジェネリック	4,381	3,957	21%	22%	11%	11%
	スペシヤリティ	5,857	4,804	29%	26%	22%	22%
	その他	200	39	1%	\$	413%	413%
米国合計		10,438	8,800	51%	48%	19%	19%
欧州*							
	ジェネリック	3,387	3,810	17%	21%	-11%	-3%
	スペシヤリティ	1,563	1,101	7%	6%	42%	53%
	その他	723	749	4%	4%	-3%	\$
欧州合計		5,673	5,660	28%	31%	\$	8%
その他の地域							
	ジェネリック	2,617	2,429	13%	13%	8%	10%
	スペシヤリティ	730	588	4%	3%	24%	31%
	その他	859	835	4%	5%	3%	8%
その他の地域合計		4,206	3,852	21%	21%	9%	13%
総売上		20,317	18,312	100%	100%	11%	14%

*スイスおよびノルウェーを含むEU加盟国

\$ 0.5%以下

製品ライン別 2012 通期売上高

ジェネリック医薬品事業における純売上高は、前年度（102 億ドル）比 2%増加の 104 億ドル（原薬売上高 7.96 億ドル）となりました。ジェネリック医薬品事業における通期総売上高は前年度通期総売上 56%と比べ、51%となりました。ジェネリック医薬品事業における売上高は下記の通りです。

- 米国における売上高は、前年比 11%増加の 44 億ドルとなりました。米国におけるジェネリック事業は、ACTOS[®]および ACTOplus[®]のジェネリック製品を含む 23 品目のジェネリック医薬品を 2012 年に追補したこと、ならびに Lexapro[®]、Provigil[®]および TriCor[®]などの独占的、半独占的、または競争が限定的な市場におけるジェネリック製品より利益を享受しました。
- 欧州における売上高は、前年比 11%減少、または現地通貨建てで 3%減少の 34 億ドルとなりました。本減収は主に欧州の主要市場において引き続き見られるマクロ経済的な状況および医療改革に起因しました。本状況に取り組むため、私たちは欧州における戦略を引き続き調整し、マーケットシェアよりも利益性の高い持続的な成長に焦点を当てています。通期における減少は前年度にイギリスで Lipitor[®]のジェネリック製品を追補した結果として前年度売上が高かったという事実を反映していません。
- 欧米以外の地域における売上高は、前年比 8%の増加、現地通貨建てで 10%増加の 26 億ドルとなりました。カナダ政府による薬価改定に起因するカナダのジェネリック製品売上の低下に一部相殺されたものの、ラテンアメリカおよびロシアの業績は好調であり、および日本での企業買収の一年に渡った統合が売上増加の要因となりました。

	2012年度 (12月31日)		増減率		対前年同期
	2012	2011	2012比率(%)	2011比率(%)	
	単位:百万米ドル				
ジェネリック	10,385	10,196	51%	56%	2%
原薬	796	747	4%	4%	7%

スペシャリティ医薬品事業における売上高は、前年度（65 億ドル）比 26%増加の 82 億ドルとなりました。スペシャリティ医薬品事業における売上高は下記の通りです。

- 米国における売上高は前年度比 22%増加の 59 億ドルとなりました。
- 欧州における売上高は前年度比 42%増加、現地通貨建てで 53%増加の 16 億ドルとなりました。
- 地域における売上高は、前年度比 24%の増加、または現地通貨建てで 31%増加の 7.3 億ドルとなりました。

スペシャリティ医薬品事業売上高の通期売上高に占める比率は、前年度 35%のところ、40%となりました。

スペシャリティ医薬品事業における売上高が 2011 年から増加を示した主要因として、した Cephalon 製品（主に Trenda®6.08 億ドル、Provisil®4.17 億ドル、Nuvigil®3.47 億ドル）を統合したこと、また主に Copaxone®および Azilect®などのテバの既存製品の好調な売上が挙げられます。

米国および世界における多発性硬化症の優れた治療薬である Copaxone®のテバの世界的な売上高は、前年度（40 億ドル）比 12%増加、または現地通貨建てで 14%増加の 36 億ドルとなりました。本増加は欧州における販売権の再獲得の成功、および ROW 地域の好調な業績によります。米国においては、売上高は、一年を通して実施された価格の引き上げによって 4%増加し、29 億ドルとなりました。米国以外における売上、前年度比 39%の増加、または現地通貨建てでは 49%増加の 11 億ドルとなり、これは主に欧州における販売権の再獲得およびロシアでの堅調な売上の結果です。

テバが記録した Azilect®の売上高は 14%増加して 3.3 億ドルとなり、世界的な市場では 7%増加の 4.2 億ドルとなりました。これは主に米国および欧州における需要の伸長、ならびに価格引き上げによるものです。

さらに、本年度は QNASL®, Synribo®および ProAir®残存計付き吸入器といったスペシャリティ医薬品の上市にも成功しました。

	2012年度 (12月31日)		増減率		対前年同期
	2012	2011	2012比率(%)	2011比率(%)	
	単位:百万米ドル				
スペシャリティ	8,150	6,493	40%	35%	26%
中枢神経系	5,464	4,412	27%	24%	24%
コパキソン®	3,996	3,570	20%	19%	12%
プロビジル®	417	350	2%	2%	19%
アジレクト®	330	290	2%	2%	14%
ヌビジル®	347	86	2%	§	303%
呼吸器系	856	878	4%	5%	-3%
プロエア™	406	436	2%	2%	-7%
キューバル®	297	305	1%	2%	-3%
ウーマンズヘルス	448	438	2%	2%	2%
オンコロジー	860	268	4%	1%	221%
トリアンダ®	608	131	3%	1%	364%
その他スペシャリティ	522	497	3%	3%	5%

§ 0.5%以下

OTC 事業における通期純売上高は、前年 7.65 億ドルに対して、22%の増加、または現地通貨建てで 28%増加の 9.36 億ドルとなり、これはラテンアメリカおよび欧州における売上の伸長および 2011 年 11 月に開始した製造契約に準じた米国における P&G 社に対する OTC 製品の売上が主な要因です。年間を通して、共同事業である PGT ヘルスケアは、ハンガリー、ロシア、ポーランドおよびチェコ共和国における Vicks®製品ラインの上市に成功しました。

その他事業における通期純売上高は 8.46 億ドルで、主にイスラエルおよびハンガリーにおける委託製品の販売が要因となりました。また前年度は 8.58 億ドルでした。

	2012年度 (12月31日)		増減率		対前年同期
	2012	2011	2012比率(%)	2011比率(%)	
	単位:百万米ドル				
その他	1,782	1,623	9%	9%	10%
OTC	936	765	5%	4%	22%
その他の収益	846	858	4%	5%	-1%

2012年度第4四半期の主指標

為替の影響に関しては、今期と前年同期の為替差損により約5千万ドルの売上減となりましたが、僅かながらですが営業利益には好影響となりました。米ドルが一部通貨（主にユーロ、日本円、およびイスラエル通貨）に対してドル高になったことが主な原因でした。

非GAAPに関しては、今期は8.22億ドルの非GAAPによる費用が計上されました。主な内訳は減損4.95億ドル、無形固定資産購入の償却2.84億ドルでした。続いて非GAAPによる決算書は下記を除外するために調整されています。

- 進行中の研究開発ポートフォリオ検討結果の一部として、CureTech社との契約解除、米国、特にカリフォルニア州アーバインにおける製造設備の減損処理、ジェネリック競争導入によるGabitril[®]に関する減損処理4.95億ドル
- 購入無形固定資産の償却費2.84億ドルの内訳、売上原価2.71億ドルおよび販売費1.3千万ドル
- Cephalon社とTheramex社の統合関連買収再建費1.36億ドル
- Neurosearch社およびXenon社との契約に関する仕掛研究開発費6千8百万ドル
- 債務借り換えに関する費用3.2千万ドル
- 主に注射剤および動物用医薬品工場の規制関連設備2.5千万ドル
- 訴訟和解費用8百万ドル
- 関連税収およびCureTech社少数株主収入2.26億ドル

テバは上記項目を除外することにより、株主の皆様への当社事業に対する理解が促進されると確信しています。米国GAAPと非GAAPによる決算報告書の比較については別紙をご参照ください。

非GAAPによる当期**営業利益**は前年同期比22%減少の13億ドルとなりました。GAAPによる当期営業利益は、前年同期6.1億ドルに対して3.3億ドルとなりました。

非GAAPによる当期**純利益**および**希薄化後1株当たりの純利益**は前年同期14億ドルおよび1.59ドルに対してそれぞれ11億ドルおよび1.32ドルとなりました。GAAPによる純利益および1株当たり利益は3.2億ドルおよび0.37ドルとなり、前年同期は5.06億ドルおよび0.57ドルとなりました。

非GAAPにおける当期**総利益率**は前年同期60.7%に対して58.7%となりました。減少要因はCopaxone[®]の好調な売上と一部相殺されましたが、2012年第4四半期において米国での上市製品の売上の低迷に加えて、Provisil[®]のジェネリック競争の激化となりました。GAAPにおける当期総利益率は前年同期50.8%に対して53.1%となり、前年同期の在庫マークアップが影響しています。

製品分野	第四半期	2012年度
	非GAAP売上総利益率	非GAAP売上総利益率
ジェネリック(原薬を含む)	43.4%	43.5%
スペシャリティ(多発性硬化症治療薬を除く)	84.5%	86.8%
多発性硬化症治療薬	87.5%	89.2%

当期研究開発費（インプロセスR&Dの取得費除く）は、前年同期（3.71億ドル、売上高の6.5%）から増化し、売上高の7.1%に当たる3.74億ドルでした。増加の主な要因は、新しく統合したR&D組織によって開発の進捗状況を反映したことです。CRO等への研究開発費支払い前及びインプロセス研究開発費を含んだ総研究開発費は、売上高の9.0%に当たる約4.72億ドルでした。

製品分野	第四半期	2012年度
	非GAAP研究開発費	非GAAP研究開発費
ジェネリック(原薬を含む)	5.3%	4.7%
スペシャリティ(多発性硬化症治療薬を除く)	19.8%	17.1%
多発性硬化症治療薬	2.3%	2.1%

当期営業・マーケティング費（無形固定資産の減価償却費を除く）は、前年同期（10.25億ドル、売上高の18.1%）から増化し、売上高の19.9%に当たる10.43億ドルでした。増加の主な要因はスペシャリティ医薬品の費用増大、欧州におけるCopaxone[®]のリベート費でしたが、為替差や米国のジェネリック医薬品に対するロイヤルティ支払い減少によって一部相殺されました。

製品分野	第四半期	2012年度
	非GAAP営業経費	非GAAP営業経費
ジェネリック(原薬を含む)	19.0%	19.0%
スペシャリティ(多発性硬化症治療薬を除く)	31.8%	28.4%
多発性硬化症治療薬	15.6%	12.6%

当期一般管理費は、前年同期（3.15億ドル、売上高の5.5%）から増加し、売上高の6.1%に当たる3.18億ドルでした。

非GAAP当期財務費（手形一括支払い費用3200万ドル除く）は、前年同期の6800万ドルと比べて増加し、1.14億ドルでした。増加の主な要因はセファロンの買収に伴う追加負債の利払い増加、2012年中債務借り換え、今期為替差でした。

非GAAP当期税引当金は税引き前非GAAP収入12億ドルに対して8千万ドルでした。前年同期の税引当金は、税引前収入17億ドルに対して2.39億ドルでした。2012年の年間税率は、セファロン買収による事業活動地域ならびに取扱い品目の変更を主因として前年より微増しています。GAAPベースでは、税率が平均税率より高く設定されていた資産の減損処理及び減価償却による繰延税金負債減少の結果、今期1.1億ドルの税控除を計上しました。

営業活動から得た当期キャッシュフローは約16億ドルであり、前年同期（14億ドル）と比較すると10%増加しました。純固定資産費及び配当金を除いたフリーキャッシュフローは前年同期（9.58億ドル）より8%増加し、10億ドルでした。増加の主な要因は今期売掛金の減少を反映しています。2012年12月31日付のキャッシュ及び有価証券（2014年満期優先債権1.7%の10億ドル、2013年1月償還前）は31億ドルでした。

当期自社株買い戻しは、総額5億ドルで約1270万株実施しました。2011年12月に承認された30億ドルの自社株買い戻し計画の一環として、2012年初頭から約12億ドルを投じ、2810万株の自社株を買い戻しました。この結果、2012年12月31日時点の加重平均完全希薄化後発行済株式数は2011年12月31日より約1200万株減少しました。

当期完全希薄化後 1株当たり利益の算定に用いた加重平均発行済株式数は GAAP、非 GAAP 共に 8.68 億株でした。2012年12月31日時点のテバの時価総額算定に用いた発行済株式数は約 8.57 億株でした。

2012年12月31日時点の株式金額合計は、2012年9月30日時点の231億ドルから2億ドル減少し、229億ドルでした。減少の主な要因は自社株買戻しと配当金支払いですが、GAAP純利益3.2億ドルとプラスの外貨換算影響によって一部相殺されました。

配当金

2013年2月5日開催の取締役会において、当期配当金は1株当たり1.15シユケル（2013年2月6日時点為替率に基づき約31セント）と発表されました。

計上日は2013年2月21日、支払日は2013年3月7日と決まりました。源泉徴収税率は15%となります。